

関西支部シニア会活動報告

行事名	特徴ある技術を有する企業見学会
回次	本年度第1回 通算第12回
開催日時	2017年7月25日 14:00~16:00
場所	(株)モリタ 三田工場
参加人数	シニア会員 24名 学生員 2名 合計 26名
行程	会社概要説明 工場見学 技術講演 質疑応答
内容と感想	<p>1) 最初に 労務部 部長 小田嶋巖氏より見学受け入れのご挨拶があった。次いで会社概要説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当三田工場は、消防車の開発・製造・販売の消防車両事業、消火器等の防災機器・設備の開発・製造・販売の防災事業、リサイクル関連施設の設計・施工などの産業機械事業、塵芥車等の環境保全車両の開発・製造・販売の環境車両事業を統合する(株)モリタホールディングスの傘下で消防車事業を担う(株)モリタの工場である。 ・2008年に、それまで大阪市生野区にあった車両工場他を三田に移設・集約して新三田工場となった。 ・当工場での消防車両の年間生産量は700台程度で、消防車全体の国内シェアは55%、はしご車に限れば90%とのことである。 <p>2) 工場見学 生産現場を見学通路から見学しながら、労務課の後藤愉香氏より説明を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に受注生産であり、発注先の自治体、消防団毎に使用目的、仕様等が異なるためライン生産方式は採れず、1台1台の手作りとなる。 ・その中でも、ポンプやタンクなどの主要コンポーネントは可能な限り共通のモジュールとする努力をされているように見受けられた。 ・ポンプの性能の基準等についての説明があった。また、水に空気を混入させた泡消火による水使用量の削減、消火中のホース重量の軽減等の効果についての説明を受けた。 ・傾斜地での、はしご車の旋回面を水平に保つための機構を工夫されていることが判った。 ・見学の後段で、窒素リッチの空気を送り込むことによる新しい消火システム(Habot-mini)のデモが実施され、その効果を確認できた。等々である。 <p>3) 技術講演 商品開発部長 箕浦勝彦氏より、技術講演を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社では、消防車両を一般車と特装車とに分けているが、夫々がどのような機能を持つ車両で構成されているか、代表的な仕様を示しながらの説明を受けた。一口に消防車と言っても多種多様であり、現場の状況に応じた効率的・効果的な救助と消火を行うために払われている努力を理解することが出来た。 ・はしごの振動防止などの操作性の維持向上や機器間の制御にはCAN通信等の最新の技術が適用されている事が理解出来た。 <p>4) 質疑応答 ・ポンプの構造・機構、はしごの伸縮機構、海外を含む特許戦略、長尺はしごの今後の開発動向、計測制御技術への取り組み 等々、多方面にわたり活発な質疑応答があった。</p> <p>全体として消防車両における技術について参加者の理解が進み、新たな発見もあった意義ある見学会になったと思われる。 学生会から 2名の参加があったが、消防車両の世界にも取り組むべき技術課題があることを体感できたのではないかと考える。</p>

写真1 質疑応答風景



写真2 参加者集合写真

